第17回写真コンクール　優秀賞「秋色彩の古都」杉山早苗氏

いしずえ

沼津建設業協会
広報誌

発行・編集
社団法人 沼津建設業協会

広報委員会
沼津市御幸町17－12
電話〈055〉932－8311

発行日　隔月1日

野帳

実りの秋

平成十七年も早いもので、十ヶ月が過ぎ去り秋を迎えました。皆様もそれぞれの立場で粉骨砕身の努力を続け、この実りの秋を迎えたことでしょう。暑い選挙戦後だけに、実りへの期待は大きかったのですが……。しかし厳しい現実は変わりようがありません。

さて、特別国会も始まり、気になる衆議院の議席はと見ると、予想どおり自民党の圧倒的な多勢であります。八十三人の新人議員達が自民党席の前の方に座り、いわゆる造反無所属議員達は隅においやられているようにさえ感じます。いずれにしても選挙戦に勝利した方々であるが……。

おそらく多数の国民は、将来の見えない日本経済の中で生活していて、このように感じているのではないでしょうか。

それは、政治家の皆さんが本当に日本の将来について考えているのか、という疑問です。この厳しい時に当選した新人議員の中には、当選の感想とこれからの抱負を聞かれ「ゼロからのスタートです」「これから勉強します」などと言っている方もいるそうで……。実に素直なんですが、しかし、議員一人の為に必要な経費は一億円近くにもなり、日々の生活を送っている国民からすると、驚ろきの発言であります。

最近、少し耳にするようになった明るいニュースもあります。それは、「デフレ脱却」です。八月上旬に竹中経済財政担当大臣と日銀の福井総裁が、ほぼ同時に「景気の踊り場脱却」を宣言したことであり、また首都圏や主要都市の一部では地価が反転したという報告です。まさに、日本経済がようやくデフレから脱出する実感が湧いてきました。景気が踊り場を抜け出したということは、資産価格の下落にも歯止めがかかるということであり、株高は当然だし不動産価格にも波及し、地価は上昇するでしょう。経済は、デフレからインフレへ転換し、含み資産を保有している企業の経営は改善すると予測できます。

大企業の大部分が過去最高の利益をあげている昨今ですが、中小企業は依然として厳しい状況にあります。しかし、前述の様に明るいニュースも聞こえてきました。これが、今秋最大の実りでした。

暑い選挙に勝利された政治家の皆さんには、日本経済を早く回復させる、そして将来への不安を払拭するような戦略を早く打ち出して欲しいものです。

未来に向けて

第67回

「新しい価値観　LOHAS　について」

1、LOHASとは

米国発祥のLOHAS（ロハスまたはローハスと読む）という言葉が日本で流行の兆しを見せています。LOHASはライフスタイルズ・オブ・ヘルス・アンド・サステナビリティの略で、健康や環境にやさしい生き方を意味する言葉です。

三井不動産では千葉県柏市に総敷地面積4万2千平方メートルの大型開発を進めています。シネコンプレックスをはじめとする170もの商業施設が入居する予定の施設です。このプロジェクトで掲げているコンセプトの一つがLOHASです。施設全体にLOHASを体感できる豊かな緑があふれ、自然の優しさや心の健やかさが街全体を彩ることを目指しています。

また三菱地所でも横浜のみなとみらい21地区に超高層マンション「M・M・TOWERS FORESIS」を計画しています。音楽家・坂本龍一氏からLOHASの提案を受け、そのコンセプトを取り入れて環境負荷の少ないマンションを目指したそうです。敷地全体に占める緑地割合を42%に増やすほか、省エネ対応のガラスや生ゴミ減量化にも取り組んでいます。

最近日本でもLOHASという言葉を目にする機会が徐々に増えてきました。業界別にみると不動産・住宅関連が最も多く、日用雑貨、衣料、健康関連がそれに続きます。いずれも「地球に優しい」、「環境に良い」、「健康に良い」を謳い文句にしています。

2、注目される理由

LOHASが注目される最大の理由は市場規模の大きさにあります。米国ではおよそ6300万人がLOHAS消費者であり、約25兆円もの市場があります。欧州でも8000万人以上のLOHAS消費者がいると言われています。ある環境ビジネス支援団体が日本における消費者を4つの型に分類する調査を行いました。その結果LOHAS型は29.3%を占めており、最多であることがわかりました。このことは日本においてもLOHAS市場は巨大な市場であることを意味しています。

第2の理由は、企業の社会的責任と密接な関連があるからです。つまり、環境に対する配慮や、消費者の健康や安全に対する配慮は、投資における選別基準の一つになってきているのです。従ってLOHASを謳うことは、企業にとってプラスに作用するのです。

第3の理由は、LOHASのコンセプトはテーマ性があり、付加価値を持っているということです。今の日本における消費の牽引力は20～30代の女性です。「おしゃれに、楽しく、地球にも自分にも優しい」というLOHASのコンセプトが若い女性たちを惹きつけているのです。環境や健康に配慮しているということで、商品単価を上げられるという側面もあります。先程の調査によると、LOHAS消費者は一般よりも高学歴・高収入とされ、「自分が納得したものは多少高価でも購入する」と言われています。低収益に苦しむ企業にとってLOHASを導入することは利益率向上にもつながるのです。

3、まとめ

企業利益の追求と環境への配慮は、一見すると背反する2つの要素のように見えますが、環境問題に関心を持つ消費者が増えてくると、むしろ環境への配慮こそが利益に結びつくのです。

私たち人類は利益を上げるために生存しているのではありません。自らの存在のために利益を上げているのです。巨大ハリケーンによって無残に破壊されたニューオーリンズの光景は衝撃的でしたが、今や地球上のあらゆる場所で同様のことが起こる可能性があるのです。人類の生存基盤である地球そのものが破壊されつつあるのです。多くの人々がこのことに気づいています。企業にとってもLOHASを導入することは、戦略的に大きな意味のあることなのです。

特別寄稿

「水の惑星」生命の営みのある地球環境を考える(57)

綺麗な水を子孫への遺産として　その2

環境カウンセラー　保坂貞治

地質調査で歩く山間の沢や谷間近くには、ゴミもあるが家庭のゴミや産業廃棄物の埋め立て地が目立つ。県の立派な許可の看板が立っている。埋め立て地の末端近くから滲み出る水は汚れが目につくものもある。民家から遠く離れた公的埋め立て地の末端の水処理施設から流れる水も異臭が感じられた。山に降った雨は地下水となりユックリと流れ地中にあるものを少しずつ溶かしやがて湧きだし流れる。この水で農作物が栽培され牧畜が営まれ、飲み水や生活、工業用水として使われている。将来にわたって孫子や次世代に安全で綺麗な地下水の確保を各市や町は真剣に考えなくてはならないと考える。科学文化の飛躍的発展により私達の生活は豊かになった。しかし、科学文化の発展により人が生活する上で廃棄物や汚水が出る。この廃棄物や汚水の中に有害物質があり安全であるとは言えない。

大規模浄化施設の排水は遊水池を作り水生植物を繁殖させ、有機物を分解し、出てきた無機質を吸収させる。

この案は何回か提案しているが中々実現されない。現在川の汚染は進んでいる。市や町はこの対策として地域をまとめ合併浄化施設を作り川の浄化に努めている。そして浄化施設で汚物は分解され飲める位綺麗になっている。しかし確かに出口で汚物は分解され綺麗になっているが無機物に分解され透明になったのであって、無機物は流れだすと水中の微生物の恰好の食料となり異常繁殖させる。微生物が多くなると水中の酸素が不足しやがて嫌気性微生物が繁殖し川は汚れる。そこで有機物や汚れを浄化するには、水を引き込む遊水池を作り水生植物のアシやイネ科、カヤツリグサ科の植物を植える。水生植物は驚くほどの浄化力がある。水生植物の回りには微生物がいて、それを食べる水性小動物がいる。水生植物はこれら微生物や小動物を支える役割であると同時に水を浄化する主役であると共に生態系の中心となっている。遊水池の草が大きくなったら刈って家畜の飼料や肥料とすればよい。有機栽培した農作物は美味しく健康にも良く薬になる食品である。

私の前の野沢川は汚れ臭いがして川が死んでいたが、東電が取水していた水を少し流すようになり幾分綺麗になった。川の洲にヨシや水辺の草が繁ってきた。草が繁ると水も澄み前のように湯垢が長く尾を引くような藻も無く、緑のアオミドロの藻に変わってきた。川辺に立ち魚影を追うのが日課の始まりである。五月三十日草むらの水辺で動くものがいる。双眼鏡で覗くとコガモが雛を四羽連れて朝の食事の最中であった。翌日コガモの親子を探していると今度は羽の色がグレーの嘴の細い雛が二羽、セグロセキレイのつがいの親に餌をもらっている。なんとも心和む風景である。自然は正直である。川が綺麗になり水辺に草むらが出来れば、虫が集まり小鳥がやってきて子育てをする。三島市では市民ボランティア団体が源兵衛川、宮川、桜川を愛する会、三島梅花藻の里、遊水匠の会が清流を戻し水辺を昔の現風景に戻す運動に取り組み成果をあげている。今では行政も一緒になって湧水の保全に取り組んでいることは素晴らしい。また水を確保するために富士山麓の各種ボランティア団体や県や富士宮市では市長さん自ら植樹活動の先頭に立っている等活動する姿は尊い。人が生活をすればゴミが出るし汚水も出る。しかしこの汚水で農作物が作られ、これが食料となり食卓に載る。この問題を真剣に考え汚染した河川の浄化対策、地下水を汚染させないことを真剣に考え、綺麗な地下水、清流を次世代へ引き継ぐ大切な贈り物として、綺麗な水を確保することは今日の科学文化の恩恵を受けるものの責務であり成さねばならない使命であると考える。河川には遊水池があり、コンクリートで三面囲まれて流れるのでは無く水生植物が生え、水性微生物や小動物、魚や小鳥が群れる豊かな自然の営みのある水辺風景のある川にしたいと願う。

古雑誌の随筆（その四十二）

橋の文学散歩

後藤貞一

雑誌「鋼橋塗装」一九七五年七月発行。VOL、3・No.2「橋の文学散歩」静岡県土木部道路建設課橋梁係長（当時）後藤貞一（技術雑感）から

その三

〔宇治橋〕

〝さむしろに　衣かたしき
今宵もや　我を待つらん
宇治の橋姫〟

古今集に名高い宇治橋は、大化二年（六四六）に、僧道登が築造したとされる、日本最古の勧進橋である。山崎橋、勢多橋と並ぶ、三大橋の一つといわれ、その昔は、橋守の役人をおいて、番屋を建て、橋の維持と管理を行ったといわれるが、今は番屋の俤もなく、わずかに、橋本という地名から、歴史が思われるばかりである。

橋が安産の守り神であったり、子供の守り神であったり、擬宝珠に神を祭り、橋全体を神と見たり、道祖神と見立てたり、塞神（さえのかみ）とする信仰に、村人たちの心情が見える。

宇治橋の橋姫伝説は、女の嫉み深さというより、執念深いと言いたい物語である。

伊勢神宮に詣でると、木造の見事な宇治橋に出会う。京都の宇治橋に倣ったというこの橋は、今の日本では、唯一の美しい、実用の橋であろう。伝統を守り、用材を調達し、巨額の費用をもって、遷宮の時と同じく、架け換えられるこの橋は、神宮であるが故に、その生命を、辛うじて繋いでいる。川の右手には橋姫神社が祭られ、橋の擬宝珠には、橋の神が祭られる。

橋詰の踏み板からは、大黒天の彫り物が作られ、善男善女の手に渡る。

人々は、移り過ぎてきた、日本の橋に、どんな感慨を、寄せていることであろうか。

宮司のお話によれば、今も昔に変らず、橋柱の固めが、最も頭を悩ますところだという。美しさと見事さの陰に、技術者の隠れた苦労の一端を知るが、それゆえに、見る者の心を打つものなのだろうか。

〔戻　橋〕

京都一条の戻橋は、河竹黙阿弥の歌舞妓「戻橋」の舞台となったところである。

愛宕山に住む鬼女が、美しい女性に化けて、渡辺綱を口説く道行。正体を見破られて、空中高く舞い上がるところを、名刀髭切によって、片腕を切り落とされる活劇は、頼光四天王物語の一つとして知られるが、橋を舞台にした、美しく、壮絶な名作として、よく知られる。

安倍晴明が、十二神将を橋の下に封じ込め、十二人の童子に化身して、京の街に入り、口占を言いながら、風の如くに飛び去った。という源平盛衰記の物語が、橋占いの元祖となったとする伝説も面白い。

京都は、日本の古都にふさわしく、数々の語り草は尽きない。

〔名橋・奇橋〕

京都の三条橋。牛若丸と弁慶のお伽話は五条大橋。高瀬舟は、伏見の京橋。少女横笛が入水した、嵐山の渡月橋。

俵藤太の、むかで退治は、勢多の唐橋。断碑の発見で、物議を呼んだ、山崎橋。など。

大阪は水の都であり、八百八橋の橋の街でもある。天満橋、天神橋、難波橋など、今も見応えがある近代橋が並び、秘められた過去の物語が、それぞれに残されている。

奇橋といえば、木曽の桟橋、甲斐の猿橋、岩国の錦帯橋と並べるものであろうか。

三河の八つ橋、浜名橋……

静岡に住んでいるので、浜名橋となると、身びいきで力が入る。浜名橋の架橋は、浜名湖の入口である今切に、西暦八六二年に行われた。更科日記では、海道を下るとき渡っているが、京に上る折には、もう跡かたもなく、この度は舟にて渡る、と記している。海道とは海の道で、尾張、三河、遠江、駿河を経て、相模に至る太平洋岸を、舟を橋として越した道である。今は、日本最大のコンクリートの橋が架かりつつある。然し、それはもはや、古く優美で、はかなく、哀しい日本の木造橋とは異なる、巨大なコンクリートの塊である。秘かに渡った細木橋の俤は、どこにも見当らない。近代機能を誇る橋であり、重車輌が、強烈なスピードをあげて、行き交う、道路の一部に過ぎなくなった。

その昔の、日本の木橋には、精神があり、哲学があった。橋を行く人々には、橋を愛し、橋を守る気概があった。

今、木は鉄に代わり、コンクリートに代わった。小橋は、大橋になり、歩く人の往来は、自動車になった。それは、材料と技術を得たからだが、城塞をあざむくばかりの、堅固で、巨大な近代構造物が、余りにも小さく、弱い人間の前に立ちはだかる姿は、恐れと同時に醜怪さを感じる。そこには、人間の感情の導入とか、思想、哲学といった、精神性が欠如しているからであろう。

これからの、若くて新しい技術者諸君は、技術の研鑽と同時に、構造物に対して、精神や、感情を吹き込む努力を、期待するものである。（終）

静岡探検倶楽部

第三十二回　山伏から富士山展望

文　井下　秀文

山は何度行っても同じ表情をすることはないところが面白さである。

私は十年連続で毎年十一月初め頃に、県境の山伏（二〇一四m）で野宿をし、富士山の撮影をしてきた。まあ天候が悪くて見えない時もあるのだが、何しろ山伏から見る富士山は裾が広く雄大で最高なのである。

山伏は高原状の明るく広い山頂で、一面笹が広がる気分のよい所で、ところどころ立枯れ木が疎立する独特の光景だ。周囲は富士山や安倍連山、南アルプスをぐるりと望むことができる。近年では直下の林道が整備されアクセスしやすくなり、富士山撮影スポットとして有名になり、アマチュアカメラマンをよく目にするようになった。

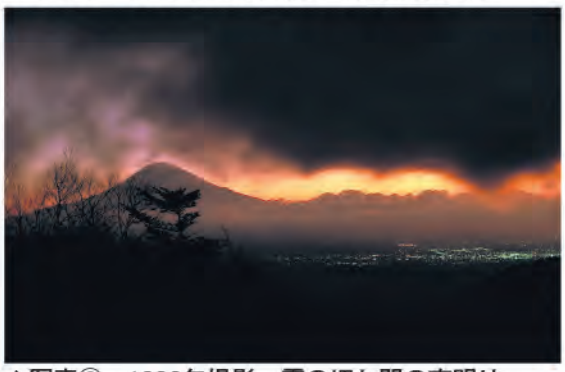
私は、一九九〇年に初めて山伏で野宿をした。秋も深まった十一月は紅葉が見頃となる頃だが、標高二千mでの野宿は耐寒訓練そのものだった。太陽が沈んでから気温はどんどん下がり、ついにマイナス十一℃となったのだ。持参した食料のおにぎりは凍り、飲料水もテントに入れなかったので凍ってしまった。朝太陽が出てくるまで、ひたすらしまったなァを連発して弱っていた。**写真①**は初めての山伏で寒さのダメージから回復した後で撮ったものだ。いい眺めであったが、光の美しい夜明け頃は撮影する気力がなかったことが思い出される。

写真②は、防寒対策もばっちりで気合を入れて臨んだ一九九二年の時のものだ。この時は一晩中山頂はずっと霧に覆われ、富士山展望は無理かと思われたが、夜明け近くに霧が切れ始め、向こうに見事な富士山がのぞいた時に撮ったものだ。氷点下の霧は、この時周囲に霧氷を作った。それが**写真③**。感動的な光景だったが、日が昇るとたちまち消えてしまった。

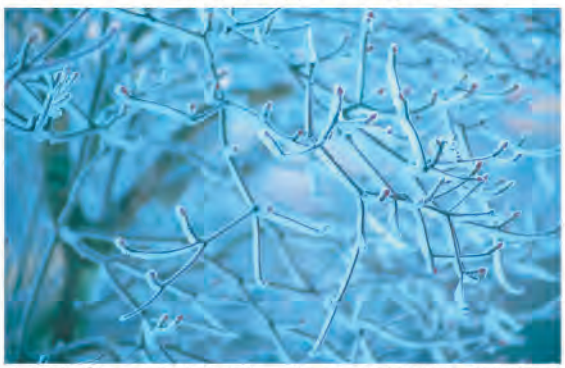
写真④は二〇〇二年のものだが、この時はアマチュアカメラマンが何十人もいた。この場所もすっかり有名になったものだと思い、そこにいる人達と同じ写真ではあまりにもつまらないので、超広角レンズで太陽まで入れて大胆に撮った。

山伏へは梅ヶ島から登山道を歩くと四時間はかかるが、クルマで林道を使うと三十分歩くだけで着いてしまう。多くの人は今このルートを利用している。機材を担いで歩いている間は体は温かいが、じっとチャンスを待ちながら撮影していると、たちまちその寒さに体は冷え、カメラは電池切れしてしまう。別天地の展望を気軽に拝めるが、そこは紛れもない二千メートルの自然界。寒さ対策は十分な予測と準備が必要である。

▲写真①　1990年撮影。初めての山伏にて。



▲写真②　1992年撮影。霧の切れ間の夜明け。



▲写真③　1992年撮影。そこには霧氷ができていた。

▲写真④　2002年撮影。まぶしい夜明け。

特別企画

「イラクに子供病院建設を！」

戦場ジャーナリスト（故）橋田信介氏夫人
橋田幸子さんが語る

「志のある人の支援には力を惜しまない」と目を輝かす橋田幸子（ゆきこ）さん。

イラクで誤って襲撃され亡くなった戦場ジャーナリスト・（故）橋田信介氏の妻として意志を継いだ幸子さんは、イラクで爆撃の破片を目に受けた少年・モハマド君の目を治療する支援を求め「モハマド募金」活動を行った。全国からの多くの支援があり、モハマド君は2004年6月に来日し、沼津市などの病院で痛みを取る手術を行った。その後、角膜手術も行い、現在は視力もある程度回復し、イラクで元気に家族と暮らしている。この募金活動の資金をもとに「橋田メモリアル・モハマドくん基金」が2004年8月22日に設立され、イラクに子供病院を建設するための活動を進めている。同基金を運営する「100人委員会」代表の幸子さんは、橋田信介氏の63回目の誕生日にあたる先月の8月22日に設立1周年記念を日大国際関係学部（三島市）で行った。幸子さんは活動報告で、子供病院に先駆けてサマワ孤児院の診療所建設への寄付を行い9月には工事に着工するめどがついたこと、またファルージャの子供病院へは基金から800万円を寄付すること、市から提供される土地の選定に入っており、女医さんの準備など、順調に進んでいることを報告した。幸子さんは、「この活動を若い世代に受け継いでほしい」と参加者に呼び掛けた。

今回は、全国に向けて支援活動を行う橋田幸子さんにご登場いただき、活動状況や今後の夢などを語ってもらった。

―今回、橋田幸子さんが清水町のご出身ということもあり、地元の方がイラクの子供のために一生懸命努力されている姿を、いろいろな方に知ってもらうお手伝いができればと思い、静岡県建設業協会の広報誌HP「けんせつ静岡」へのご登場をお願いしました。そこでまず、故・橋田信介さんへの思いから伺います。

橋田　橋田は大学卒業後、ジャーナリストの道を選び、最後の方は戦場ジャーナリストの仕事に徹し、戦場以外の取材はしないと言い続けていました。まさに戦場が職場でした。ただ、大手メディアでは危険な戦場の現場には行けませんから、フリーランスになるしか有りませんでした。後ろ盾がありませんので、資金調達から、現場へどうやってたどりついて、どういう取材をして、また、どこへ売り込んでいくのか、すべて自分の才覚でやらなければいけませんでした。私も取材に同行し後方支援をしていまして、最初のころはライトと音取りをしたり、運転手をしたりと、二人三脚でやってきました。ジャーナリストとしても大先輩ですし、いろいろなことを教えてもらいました。一方では、同じ生活者であり、発想の面白さがあり日々の生活は本当に楽しかったですね。そして戦場でもどこでも、相手が地位のある人とか普通の人とか関係なく気持ちを溶いて〝武装解除〟させてしまう不思議な人でしたね。（夫との思い出は『覚悟―戦場ジャーナリストの夫と生きた日々』

橋田幸子著　2004年11月中央公論新社発行　につづられている)

―橋田さんが戦場にこだわられた理由は

橋田　戦場が一番ドラマチックだからでしょうね。ジャーナリストとしては歴史の瞬間に立ち会える喜びというのが何ものにも換えがたい喜びだったと思います。戦場というのは、人間の表も裏も、そして人間の本音というのは美しくもあり汚くもあり、それが渦巻いている世界です。そうした死に直面した戦場の取材から帰ってきますと、本当に生きていて良かった、と、何気ない家族との日常に生きている喜びを感じます。

―子供病院の建設に向けては順調に進んでおられるという事ですが。

橋田　イラクの医療状況は大変で、技術のある医者は国外に逃げだしてしまって、病院も略奪にあい設備もない。お金のない人は治療を受けることができずに死ぬしかないという現状です。モハマド君も盲腸になったのですが、国内では手術ができませんでした。そうした背景を踏まえて子供病院をつくろうということになりました。しかし日本の最先端の医療技術を持っていってもイラクでは使えません。基礎的な医療環境を整えることが必要です。建設にあたっては、日本の団体に言えば全部やってくれると、いうのはよくありません。あくまでもサポートであって、現地の方に自立してもらわないといけないと考えています。

―モハマド君への期待は

彼が大きくなって、今回建設する子供病院の中心になって活躍してくれるといいですね。お医者さんにならなくていいから、マネジメントするような役割をになってくれるといい。

彼の部族はイラクでも200万人の最大部族で、〝希望の星〟と言われて期待されています。

―日本の建設業界が貢献できることは

橋田　湾岸戦争の時には、バクダットに日本の建設業者が1万人以上も住んでいて、発電所でも何でも日本人の技術者が作っていました。その姿を見て、イラクの方も日本の人を大変勤勉だと言っており、親しみも持っている。これからは、建設関係の仕事はイラクにたくさんあるはずです。イラクの方に建設技術を教えてあげるなど、何らかの関わり方ができるといいですね。

―これからの夢を教えて下さい

橋田　志(こころざし)がある青年を育てるためにはなんでもやりたい、自分のできることであれば。そして、企業の皆さんもいい青年を使い捨てしないでください、と言いたいですね。私自身については、自分の時間がなさすぎたので、振り返る時間がほしいですね。また大学にもどろうかなとも思っています。信介さんとやりたいことはやってきたつもりですが、やり残したなと思う親孝行をしっかりやりたいですね。

―今後のご活躍を期待します。どうもありがとうございました。

「からだづくりの教室」便り (14)

宮本悦子

「からだも冬仕度を」

冷たい風が吹くと体は冷えて乾きます。体が乾くと硬くなり、温まりにくくなります。そして血流が悪くなり皮膚が強張り感覚が鈍くなります。

こういう状態が続くと肌はカサカサ、赤く、かゆくなり、表情は強張り、筋カチカチ、背中や腰もカチカチのバリバリ。手足冷たくしもやけや、ひびいとシビレ、関節も痛くなったり次から次へ容赦なく悪い症状が出てきます。

「冷えは病気の原因」

冷えないように注意をしたいところですが、自分は冷えている、冷やしていると思ってない人が多いのです。

手軽に飲めるペットボトル飲料など、アイス、冷えすぎのビール、氷をいっぱい入れたチューハイ、南の国の果物、生野菜サラダ、入浴がわりにシャワー……など知らないうちにどんどん冷やしている生活があるのです。

現代は冷暖房装置が手軽で便利な為、何となく体表面だけ夏は涼しく冬暖かくしているように感じますが、この機会に体の中(内側)のことを観察する気持ちをもって考えてみましょう。

特に冷たい飲み物は口から入って胃袋の消化をほとんど経ずにいきなり腸に行きます。

すると腸は冷え動きが弱くなり消化活動もあまり無いまま、通過するだけの感じです。腸が冷えるとその周辺も冷えます。腸骨(骨盤と多くの人が言っている腸を支える大きな骨)の動きが悪くなり同時に腰も影響を受け腰痛の原因にもなります。女性は特に注意し保護しなければならい重要な部分です。

「乾きも要注意」

冷えると体は乾きます。冬は寒いけれど洗たく物はカラカラに乾きます。

レモンと同じように私達の体もカラカラになります。

乾いてしまうと、咳が出たり、鼻水、痰、かゆみ、髪がパサパサ、静電気がおきる、血液や体液が濁り排泄力の低下、骨と骨の間の椎間板や筋肉の弾力低下などここにも腰痛や不快な症状の原因があるのです。

「季節を先取りする体」

一、二月が真冬なのでその時に体を暖かくしておくのも大事ですが、体はその時期にはもう春の準備をしているのです。本能的に次に来る季節はわかっているので私達の気がつかない体の深部ではその頃すでに春仕度が始まっていることでしょう。

体に冷えと乾きが良くないとおわかり頂いたところで、体を温め水分を補給できる食生活とライフスタイルをおすすめします。

●水はチビチビ体に、しみこむように飲む
お茶はガブガブと、たくさん飲む
鍋もの汁ものをとる

●野菜は、よくかんで
食べるクスリ

●腰湯は全身が…
あたたまる方法です。

これで今から冬のしたくにとりかかりましょう。

御厨(みくりや)の古今 (4)

古文書 (1)

勝間田　秀彦

公事訴訟御裁許秘訣書

本書は元　駿州駿河郡印野村　名主八郎左衛門家に保管されていた文章である、現在御殿場市印野支所に保管されているものである。秘密法典「御定法書」は上下二巻になっている、奉行所の中の外他見してはならない秘密法典であって裁判関係の奉行以外は公的には見る事ができないものであった、がこの御定法書の写がどんな経路で印野村名主八郎左衛門の手元に保管されていたかを推理してみる。

時の小田原藩主は普代の大名で中央において要職を務め老中として幕閣の重職を永年に亘り務めている、従って家中の者も御定法書を垣間見る機会にも恵まれた、そこでその写しが藩内・または領内へ内緒で流れ出た。当時、名主八郎左衛門は名字帯刀を許されていて、御厨地方でも名家であった。

この御定法書は、徳川時代の刑法・民法であって、現在風に云えば六法全書とも云えるものである。現在も実用されているものもある。

この条項の運用によって裁判の全て行ってきたものとおもわれる。武士に軽く、農民・村民に重く、無宿者には特に科せられていると思われる。今回は上巻を記載します　主な条項のみ

裁許秘訣目録

一　公事訴訟扱
一　国郡境論
一　魚漁海川境論
一　田畑禁論
一　堤井用水論
一　証拠証跡用不用
一　馬継川岸場市場
一　跡式養子離別並後住引取人
一　寺社普離旦出入
一　質田地論
一　借金家賃出入
一　奉公人出入
一　裁許破掟背其外御仕置
一　御誕生日御忌日
一　覚
一　覚

公事訴訟扱

一、関八州より申出候公事は御領・私領共御勘定奉行初判　関八州之外私領之分は右同断　大岡越前守支配之分は越前守初判出之、

一、関八州私領之分は寺社奉行初判但　関八州之外にても寺社奉行支配之分は右同断

一、五畿内近江・丹波・播磨之国は京大阪町奉行江訴出・但国　之より余国江懸り候出入り者寺社奉行より初判出之

一、町奉行支配之町の之出入者入者勿論江戸之内寺社奉行支配之者より町奉行支配の者江懸り候出入者御勘定奉行初判出之江戸町端近き在在より江戸者江掛り候出入は一座裏判不及出に双方之家主・名主・組頭・五人組立会来り幾日迄可済於不相済者幾日に可出旨其筋の之役所江之押切を出し其上にて評定江出す

一、私料之百姓地頭江願時久敷不取上或者裁許之次第難請再應願候ても不取上候はば奉行所江訴出者再許申出る

国郡境論

一、国郡之境は官庫の絵図或者水張次第也

一、国郡境山論水分之峯通限りなり

一、双方証拠於無之者大道筋或者川之中央又者峯通り谷合見通し水張次第古田畑境たり

一、内山居林等江は地元之外入会禁之

一、外之入会場江粉入苅取者渦料

魚漁海川境論

一、川者附寄次第流に随飛中央境たり

一、魚猟人会場国境之無差別取上

一、壹本針ニ而鰻釣事禁之外なり

(次号につづく)

言いたい放題

同心円は永続の形？

ひと昔前、たしか千年期という、年代・時代のひと区切りを示す言葉をよく聞いた。一九九八年などという一千年代が終わり、本年は二〇〇五年。つまり二千年代であり、二十一世紀である。

私たちは百年の区切りと千年の区切りを同時に越え、それからもう五年が過ぎようとしている。

では、私達の生活や空間は、それ以前とどんなところがどのように変わったのだろうか。

千年期を越える時、この地球上における人類の生存自体もあと千年だと言われもした。みんな、自分だけは大丈夫、我が一族は安泰だと思っているだろう。だが、それは甘いかもしれない。

「奢れる者は久しからず」で、どんなものにも破滅、消滅、破局はあるはず。地球の物理的寿命は千年以上はあるだろうが、その前に人類はどうなってしまうのか。

そんなことを心配していたら、眠られなくなってしまう。が、そんな先のことを思い悩んでいる暇はない。

どんな組織だって人間だって、その隆盛や健康、平安と永続を望むのは世の習いであろう。将来に不安を抱えないで日常を過ごしたいものである。

半年間の開催を終えて閉幕した「愛・地球博」は環境問題もその大きなテーマとしていたが、最近、その環境問題を主題とした「持続可能な」という形容詞を耳にするようになった。

昨年、カナダのバンクーバーにおいて、外国での広域的・将来的課題への取り組み例を研修する機会があった。その際にも、この「持続可能な」という言葉をよく聞いた。

国や地域社会のあり方、近未来の広域的連携の姿、コミュニティーや住民の住み方などを勉強したが、ここでは資源活用と環境問題を「持続可能」のキーポイントとしていた。

戦争も大きな意味で言えば、環境問題であろうが、私たちの先人たちは「持続可能」な社会の存続のためにどんな苦労や工夫をしてきたのだろうか。生活環境含め、永続的な存続を願い、何か自然法則的なことをしてきたのではないかと思う。

例えば、「都」のつくり方である。それは、攻めにくく守り易い集落や都市とか、生活し易く生活圏の拡大も可能な集落や都市の形である。また、都市の内部に中心核を配置する設計である。

仮説であるが、都市の形においては基盤目状の町並みよりも、同心円的なものが政治面において「持続可能」であるように思われる。

日本の例でいえば、御所を中心とした京都より、江戸城を中心とした東京の形を想像していただきたい。

外国では、アルジェのカスバ。中国、客家（はっか）の円形集落。中世ヨーロッパの都市では中心広場や時計台、噴水や教会。放射状の道路がそれとなろう。

高い塔などが中心になったのは、パリ万博時につくられたエッフェル塔。日本の戦後では、東京のシンボルとなった東京タワーがあろう。大阪には通天閣があり、名古屋にも札幌にも塔がある。

大坂万博には、お祭り広場と太陽の塔という核となるものがあった。

最後に、「持続可能」を真剣に考えたであろう、歴史上の人物として、徳川家康を挙げたい。

当初、彼は富士山を新しい政権と都市づくり・国づくりの中心核にしたかったのではないか、と私は考えているのだが…。

広場

その時が大事

(株)オサコー建設
原田真衣

忘れてた！　後でいいや。というような事ってよくありませんか？

私は、やらなければならない事を後回しにしてしまった事がある。気になりつつも後でいいや。と思っていたのだろう。忘れた頃に後でいいやと心の中がもやもやしたまま後回しにしていたものが、えっ！　今頃!!　という頃に話題になったりし、最終的には、やらなければならなくなる。

いつからだろう？　私は結局は、『やらなかった事は、倍のようになって返ってくるのだろう。』と思うようになりました。

そんな事は、誰もが分かっている事かもしれませんが、いつになっても、どんな時でも大事な事だと感じます。

「その時にやる」という事は何かに対してではなく、すべての事に対してあてはまる事だと思いました。その時にやっていれば心のもやもやもなく、罪悪感もなく嫌な思いをする事もないでしょう。

その時の事はその時にやるという事が大事。と私は常々感じます。

主要行事予定

◎安全パトロール
日時　11月1日(火)　9時～
場所　長泉・清水地区管内
　　小山地区管内
　　裾野地区管内

◎安全パトロール
日時　11月8日(火)
場所　沼津地区

◎沼津工業高校インターンシップ
日時　11月10日(木)～11日(金)
場所　受入会員各社

◎安全パトロール
日時　11月10日(木)　9時～
場所　御殿場地区管内

◎建設業個人情報保護法講習会
日時　11月17日(金)　13時30分～
場所　(社)沼津建設業協会3F

●現場代理人の声

千代田産業(株)
岩田　和浩

私が建設業界の仕事に就いて、早くも七年が経ちました。現場代理人として幾何の工事を担当しましたが、まだまだ新米で毎日、悪戦苦闘しています。

経験を増すごとに、仕事の難しさ、責任の重さを実感しています。現場代理人として作業員の人たちを指揮する立場にありますが、自分の成長と仕事に対し、不安を感じる事が多々あります。

常に危険・ミスが頭にあり毎日これらと背中合わせで、仕事をしています。緊張状態の中、不安をかき消す様に計画を立て、作業に対し何度も確認を行い工事を進めていますが、経験を重ねても、知識が増えても、この業務に就いている限り、不安から解放される事はないのかもしれません。自ら不安のもとを探り出し、安心できる様に変えていく事が大事な作業の一つと考えています。安易な考え・決断が重大なミスへと変わる事は、簡単な事ですから。

『3K（キツイ・汚ない・危険）が建設業のデメリットだ。』新人の頃、よく耳にしたし、私自身、そう思っていました。最近、この言葉を聞かなくなったし、私もデメリットと思わなくなりました。現場に対し、情熱を持ち真剣になって挑んでいれば感じないものですね。例えば、毎日自由で、楽で、責任のない仕事をしていたら、満足感を得られるでしょうか。『3K』の要素をもっているからこそ、建設業が楽しく、やり甲斐のある仕事だと私は思います。

私が作業員の人たちと造り上げた建設物は、何十年先まで存在し、人々の目や手に触れるわけです。私が普段、先人たちの技術に感動するように私自身、後人に感動されたいと思います。環境破壊・異常気象等、多くの問題を抱える自然を相手に、上手に共存した建設物を築ける様に、発想力・経験・知識を高め、いつまでも情熱をもって仕事に取り組みたいと思います。

私の余暇
At one's leisure

(株)加藤工務店
松本　常宏

私の余暇は、31才から始めたギター演奏です。ギターと言っても、年甲斐も無くエレキギターなのです。

それは40～41年前、幼少の頃の話になりますが、当時のTVからよく流れていたベンチャーズサウンドにしびれ、真似事をして遊んでいたものでした。

その後何年か過ぎ、社会に出て、家庭を持ち、子供も大きくなって自分の時間が出来た時、ふとその頃の事を思い出し、小遣いをはたいて、ベンチャーズが使っていたのとまったく同じUSA製のギターを買ったのです。

当然最初は弾ける訳などなくて、眺めてはうっとり一人満足してました。その内に欲が出てきて『弾けるようになりたい』と言う気持が強くなり、それからはCDを聴き込んでフレーズを真似して楽しむようになったのです。

何日もかかって1曲・2曲と……。その甲斐あって今ではレパートリーもかなり増えてきました。こり症の私は、メンバーを揃え、世間で言うおやじバンドを結成し、あちこちのイベント等でライブをやって楽しんでいます。

最近では色々な関係者を通し頼まれる件数も多くなり、スケジュール調整も大変なくらいになりましたが、仲間と楽しくバンド活動を続けています。

これからあと何年人前で演奏が続けられるか分かりませんが、健康に気を付け、仕事をがんばり、ライブも楽しんでいきたいと思っています。

▲ハイバー
アドベンチャーズ

安全標語

◎11月
「見たつもり・やったつもり」
それがあなたの落し穴
(株)オサコー建設　田代　治子

◎12月
急がない　仕事は準備と手順良く
(株)飯田建設工業　飯田　太志

家族からみた父親像

臼幸産業(株)
総務部長 岩田　安宏
長女 岩田真由美

私の父は、家族を支える大黒柱として働いてくれています。

毎朝、会社へ出社する父の後姿は、堂々としています。父は、会社での話はほとんどしません。たとえ、つらいことがあったり、疲れたりしていたとしても、そういった事を言葉にはしません。でも、私たちは父に話をします。弟と妹は、宿題の分からないところを質問することもあります。父と話すことは、楽しいです。

父が、頑張って仕事をしてくれる事により、私たちは安定した生活ができ、学校へ行ったり、欲しい物を買ってもらったりできます。

私たちは、父に対して何ができるのでしょうか？

仕事から帰って来た父を暖かく迎えること、休みの日ぐらいは、ゆっくり休んでもらうこと……。

あとは、元気でいることですかね。

最近は、家族の都合がなかなか合わないので、休日は出かけることが少ないです。

こういう日に、父にはゆっくりと自分のやりたいことをしてもらいたいです。私たちも、父には元気でいてほしいと思っています。

父は、私たちが見ていない所で、人一倍、頑張ってくれているのです。

家にいるときぐらいは休めるように、私たちも考えていかなければならないでしょう。無理をしすぎないでほしいと思います。家族全員で、支え合っていきたいです。

私の大切にしているもの

東静建設(株)
鈴木　博玄

人生が長いと大切な物が色々あって、とてもしぼり切れないがその中の一つに「郵便切手」がある。

中学生の頃、五銭の鉄道記念切手を買って、翌年十銭で売りニヤニヤしたが当時は趣味より欲の方が強かった（資料を見ると現在のその切手は千円の評価格である）

それ以来切手収集にのめり込んだが終戦でそれどころではなく一時中断したが、東京オリンピックの頃ブームが再来し、郵趣協会にも入会して再スタートを切り今に至っている。

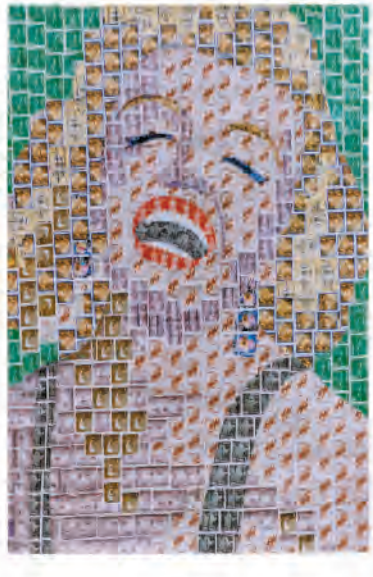
現在、日本切手は四千枚近くあり貴重なものもあるが、最近の郵政の切手乱発にあきれて、収集は一時ストップしているのが実状である。

しかし長い収集の間、色々な人との出合いや歴史の知識等を得て、子供の頃の切手集めの様な一過性の遊びでなかった事をひそかに喜んでいるが、身内に後継者がいない事が悲しい。

そんな中にあって少し邪道かも知れないが最近「使用済切手」の貼り絵にのめり込んでいる。

数年前、東京のスタンプショーで貼り絵を見て興味がわき、手持ちの余り切手で貼り始め親戚や友人に配り喜ばれているので現在大切な物の一つになりつゝあるが、仲間が少なく知る限りでは県下で数名の人ぐらいしかいないのを淋しく思っている。

写真はマリリン・モンローのモザイク貼り画で、十一種の切手で五百二十余枚を使い新聞紙一頁大に仕上げてある。



俳句

水谷美保子

箱根路に芒の銀波
　迫り来る
青春の甘き想ひ出
　十三夜
茹栗を剥きつつ湯宿の
　クラス会

短歌

杉山孝子

ラジオ聞きつ手元確かに仕事する
　若き左官は3K嫌わず
初孫を抱き喜ぶ友の顔
　便りの中に溢れてをりぬ
教会の尖塔の上に止りたる
　鴉は動く風見鶏のごと

ペット紹介

岳南建設(株)
清野裕二

私の家には4種類のペットがいます。犬、猫、チャボ、カメです。そのうちの犬のチャーボー、猫のドラ、カメのミドリちゃんは、拾われて我家の一員になりました。

チャーボーは子犬の頃、娘と妻が滅多に使わない自転車で友達の家に行く途中で、草ムラの中で死にそうになっていた子犬を持帰って来たのでした。最初は食欲もないくらいでグッタリと横たわり、ミルクを飲む元気もありませんでしたが、妻が無理矢理飲ませ、なんとか一命を取り止めたような感じだったのです。元気になったらチャーボーは、家の中を駆け廻り子供達の仲間として元気に育ってきました。次に猫のドラのいきさつです。雨の降る肌寒くなった秋の終わりの頃、家の中でくつろいでいると、外から今にも死にそうな声で猫の泣声が聞こえて来たのでした。

その声に反応した子供達が外に飛び出しその子猫を家に連れて来ました。『ダメだよ』と妻の声、子供達はがっかりしてシブシブどこかに行ってしまいました。数分後、子供達どこに行ったのだろうと探しに妻が部屋から出ていった。

離れの妻の実家から大きな笑い声が聞こえてきたので、何だろうと思い行ってみると濡れた体をドライヤーで乾かしている妻と子猫の姿がそこにあった。絶対うちで飼うんだと言う子供達の主張と可愛い真黒な子猫に妻も負けたらしいのです。私はその光景をみてうれしく笑った事を今でもハッキリ覚えています。

こうしてチャーボーに続いて猫のドラが我家の一員に加わりました。不思議なのが犬猫鳥の異種の3匹がエサ箱を3つ並べた場所に夢中になってエサを食べている姿です。

3匹はとっても仲が良く、暖かい日だまりの仲を3匹で体を並べて昼寝をしている光景は心をなごませてくれ、平和を感じる時間を与えてくれました。

この子供もすっかり年老いて来ています。考えたくもないが、この子供が近い将来天国に行った後のさみしさを感じます少でも長く生きてネ。

広場

私が大好きなマンガの紹介をします。みなさん御存知だと思いますが、マンガ家の本宮ひろしと言う方がいらっしゃいます。俺の空が有名でしょうね。その本宮さんが画いているサラリーマン金太郎を紹介いたします。テレビドラマでも放映されましたが、実際のマンガとは大部違いますし、面白さが違います。

主人公の金太郎は、ヤクザの父と優しくて美しい母との間に産まれました。幼い頃、父親は子分の失敗をかぶり刑務所に入れられ、母親は病気で亡くなりました。母親の親族に引きとられた金太郎はたくましく育っていったのでした。

高校入学時、田舎でもトップクラスの高校に行ける頭をもっていたのですが、あえて東京の定時制高校に一人で単身で上京し入学したのです。ケンカが強かった金太郎はあっと言う間に関東地区の暴走族「八州連合」のトップに立ったのでした。2万人の子分達と走った暴走は伝説となり、金太郎は引退し八州連合も解散となりました。田舎に戻った金太郎は、亡妻との子と二人でほそぼそと暮らしていたのでしたが、大手建設会社の会長の命の恩人となり大手建設会社に就職する事となったのです。

この世の中で中学しか出ていない暴走族の頭をやっていた人物が大手に入る事などあり得ない事で、会社内では会長の隠子ではないかとうわさされました。最初はエンピツ削りしかやってなかった金太郎が、人を魅了しさまざまな大物人物と仲良くなり、出世していく過程は、読む者としても、あこがれの存在となって行くのでした。さまざまな挫折、逆境を乗り越えて、大きな仕事をしていくその姿は、われわれ若手サラリーマンの憧れの存在になって行ったのです。

このマンガから、人との関わりと言う物が大切で宝物となる物だと言う事を改めて教えられた気がします。

これからの人生、人との関わりを大切にして、金太郎に一歩でも近づけていけたらと思っております。

協会の動き

第12回親子自然教室の実施

地域住民の皆さんと建設企業との一層の円滑な関係維持増進等を目的に毎年実施している第12回親子自然教室は、八月二十四日(水)、一日間静岡県熱海土木事務所（山田ダム管理課長、外職員）の御協力を頂いて伊東市鎌田、奥野ダム（松川湖）管理事務所と周辺施設を会場に広報委員会(委員長林則夫）が参加し、青年部会（部会長飯田太志）の担当で実施した。

当日は、御殿場市など管内各地区から小学生の親子百十八名が広報委員の添乗と案内で大型バス四台に分乗して奥野ダムへ集合しダム管理機械・ダム提体・資料館の見学やダム周辺の公園散策を行った。

広報懇談会の開催

広報委員会（委員長林則夫）は、八月二十六日(金)午後四時より沼津市内にて本誌「いしずえ」の原稿執筆者を、お招きして懇談会を開催した。

懇談会には、「古雑誌の随筆」の後藤貞一氏、「水の惑星」の保坂禎治氏、「古今東西」の勝間田太郎氏、「からだづくりの教室」の宮本悦子氏の四氏が出席され席上、「当誌は、小・中学校等で広く愛読されており地域と密着している。年一回程度、当執筆者の顔写真を登載してはどうか。」などのご意見を頂いた。

広報委員は、十五名出席した。

安全パトロールの実施

安全委員会（委員長高田弘之）は、九月十四日(水)午前九時より沼津地区の合同安全パトロールを実施した。

安全パトロールは、静岡県沼津土木事務所長からの実施依頼によるもので当日は沼津労働基準監督署・沼津土木事務所の関係者並びに、当委員会正副委員長等、総員九名の巡視チームを編成して平成十七年度沼津江川統合河川整備工事、外三箇所の点検を行った。

ソフトボール大会の開催

例年開催の(社)沼津建設業協会ソフトボール大会は、九月十七日(土)十二時三十分より裾野市営総合グランドにおいて厚生委員会（委員長尾崎敬治）が担当し開催した。

大会には、総勢百十二名が参加し優勝は、裾野地区チーム、準優勝は御殿場地区チームであった。

地区だより

小山町建設業協会

小山町建設業協会（会長臼井良太）は、八月二十一日に、過去二年間雨天による中止だった富士山一斉清掃に参加した。

当日は、三年ぶりの快晴となり、三年間分のゴミの回収となるかと回収にあたったが、登山客のマナーが向上したのかゴミは、非常に少なくあんどした。

沼津建設業協会小山支部

沼津建設業協会小山支部では九月二日に、小山地区の安全の為、台風通過後改めて河川パトロールを行った。改めて河川を見た所、細かな崩壊現場や今後危険と思われる箇所を発見し報告を上げた。

支部としては、これからも細かにパトロールをする事にした。

小山町建設業協会

小山町建設業協会（会長臼井良太）は、九月十四・十五・十六日に、毎年行っている特別技能講習会を本年も行った。

今年の、特別教育講習会は、アーク溶接と、高所作業車を行い当日は、七十八人の受講生が集まった。

小山町建設業協会は、特別教育講習を毎年行っていく事にしている。

写真コンクール作品募集

一、応募資格
・協会員、家族、社員
・協力会社、家族、社員
・「いしずえ」の読者

二、課題
・自由

三、作品
・カラー又は白黒
・キャビネ、四つ切り、八つ切り

四、募集期間
・平成17年9月1日～
　平成18年1月31日

五、作品の送付先
・(社)沼津建設業協会
　広報委員会

六、賞金
・最優秀賞　一点　五万円
・優秀賞　三点　三万円
・佳作　五点　一万円

七、審査
・主催者（広報委員会）

八、発表
・平成18年3月1日発行の「いしずえ」に作品と共に掲載する。
・平成18年3月開催の通常総会にて表彰する。

九、募集上の注意事項
・応募作品は、作品名、作者名を表示すること。版権は、当協会に帰属する。
・「ネガ」又はデータも作品に同封すること。